



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期 **令和 4年 5月～6月** 学部 **小学部**

教科 **国語** グループ **Cグループ** 指導領域 **聞くこと・話すこと**

実態 実態について
 個別の教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？） 個別の指導計画で領域を確認
 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 (1) この題材で達成が可能？【可能性】 (2) 現在の生活で必要は？【必要性】
 (3) 将来の豊かな生活につながる価値は？【価値性】

対象児(O)
知識及び技能
 ・「のり」「消しゴム」「鉛筆」の名称を聞いて物を正しく選んだり、提示した物の名称を答えたりすることができる。
 ・「ポプラ」「プレイルーム」「さくら組」など校内の場所に関する言葉を聞いて写真カードを選んだり、該当する教室に移動したりすることができる。
 ・教師の顔写真を提示して「〇〇先生はどれ」と問うと該当する顔写真を選ぶことができる。
 ・「持って行く」「取ってくる」「あげる」などの言葉を聞いて行動する時、動作が止まったり、教師の言葉を繰り返して言ったりする。
 ・指示に含まれる言葉と対応するイラストカードを「物」「人」「場所」「動作」の視点に分けて聞き取りボードに貼る時、物を表すイラストカードを手に取った後、活動が止まる。
思考力・判断力・表現力等
 ・鉛筆(もの)を〇〇先生(人)にあげる(動作)の指示を聞くと、目の前の鉛筆を手に取って教室内を歩き回る。
 ・鉛筆(もの)をホール(場所)に持って行く(動作)の指示を聞くと、目の前にある鉛筆を手に取った後、その場にたたずむ。
学びに向かう力・人間性等
 ・繰り返し取り組むと、決まった仕方ですら課題に取り組む。

学習指導要領の扱う段階の目標と内容
 小学部2段階
【知識・技能】 ア(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。
【思考力・判断力・表現力等】 イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。
【学びに向かう力・人間性等】 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ?(知識)】 ・「物」「人」「場所」の視点と指示に含まれる言葉との対応の理解	【Oと判断できる発言や姿】 ・教師の指示を聞いた後、指示に含まれる言葉のイラストカードを、聞き取りボードの対応する視点の位置に貼る	【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】 ①「人」の視点と対応する言葉が含まれる指示 ②「物」「人」の視点と対応する言葉が含まれる指示 ③「物」「場所」「人」の視点と対応する言葉が含まれる指示
【どう学ぶ?(活動)】 ・既習の視点と新たに学習した視点を組み合わせた指示を聞いて行動したり、特定の視点を抜いた指示を出したりする場面を設定する。	【Oと判断できる発言や姿】 ・指示通りに行動する ・不足する視点について、「どこ?」「なに?」などと教師に尋ねる	【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】 ①「人」の視点が含まれる指示 ②「物」「人」の視点が含まれる指示 ③「物」「場所」「人」の視点が含まれる指示 ④視点を抜いた指示
【望む姿勢や姿は?】 ・教師の指示を聞いた後、指示通りに行動しようとする ・自分から「どこ?」「何?」などと不足している視点について尋ねる ・「物」「人」「場所」の視点が含まれる指示を聞いて、繰り返し指示通りに行動する。	【どう引き出す?】 ・おつかいの場面を設定し、指示通りに行動する度に好きなキャラクターのパズルのピースが増え、パズルを完成させる仕組みで行う。 ・全ての指示を習得した段階で視点が不足した指示を出すとともに、不足している視点の尋ね方を伝える。 ・指示通りに行動してきた時には、それぞれの視点に含まれる言葉を聞いて行動してきたことを認め、意識して指示を聞き取るよさが感じられるようにする。	

【教材は?】 **【教材名: おつかいゲーム】**

【仕組み】
 教師の指示を聞いて指示通りに行動し、ピースを集めてパズルを完成させる



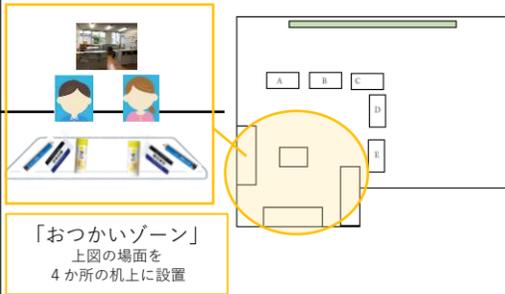
【全 10 時間をどう使う?(題材計画)】

知・技	【一次】1時間	【二次】7時間	【三次】2時間
	教材の仕組みと、本題材の課題を知る	「人」「人」と「物」「人」と「物」と「場所」の含まれる指示を聞いて『聞き取りボード』を作る	
思・判・表	知る	「人」「人」と「物」「人」と「物」と「場所」の含まれる指示を聞いて指示通りに行動する	の視点が抜けた指示を聞いた時、「だれ」「なに」「どこ」などと不足する視点を判断して尋ねる
	主体的な姿	<input checked="" type="checkbox"/> 指示を聞いて聞き取りボードを作ったり、行動したりしようとする <input checked="" type="checkbox"/> 指示が聞き取れなかったり、分からなかったりするときには自分から教師に尋ねる	<input checked="" type="checkbox"/> 不足している視点を判断し、言葉カードを指さしたり、言ったりして教師に尋ねる方法を工夫しようとする <input checked="" type="checkbox"/> できるようになったことに繰り返し取り組む

【めあて達成のための工夫は?(場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】 ○イラストカードと聞き取りボード 指示を聞いて選んだイラストカードを、対応する視点の枠内に貼れるようにした	【意図(ポイント)】 聞き取った指示に含まれる言葉のイメージを可視化し、行動する際の記憶を補助するため。また、視点が不足する指示を聞いた時、不足する視点があることに気づくようにするため。	【工夫点】 ○指示カード 教師の出す指示を、イラストカードで表現したもの	【意図(ポイント)】 聞き取りボードを作った後、教師が出した指示を正しく聞き取れたかどうかを判断するため。
--	---	---	---

【1時間をどう展開する?】

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】
本時の学習活動とめあてを知る	・本時の学習に見通しがもてるように、活動の流れとめあてを黒板に提示する ・本時の学習に意欲がもてるよう、『おつかいゲーム』で手に入れたいイラストを選べるように提示する	 「おつかいゾーン」 上図の場面を4か所の机の上に設置
指示を聞いて写真カードを選び聞き取りボードを作って行動する(*1)	・本時の学習の指示に含まれる言葉の意味と視点を結びつけるために、イラストカードを提示して、イラストカードが示す言葉の意味を実物などを使って確認した後、視点ごとに分けるように伝える。 ・指示の内容通りに聞き取りボードが作れた場合には、指示カードと聞き取りボードのイラストを提示し、視点と対応して言葉を聞き取れたことを認める。	
指示を聞いて行動する	・指示に沿って行動できた場合は、言葉と視点を対応させて聞き取れたことやそれを行動にして表現できたことを認めて、パズルのピースを手渡す。 ・不足している視点に気づいて教師に「どこ」「なに」「どうする」などと尋ねられた場合は、不足している視点を判断できたことやそれを伝えられたことを認める。	
本時の振り返りと次時の予告をする	・指示を聞き取っておつかいできたことを知らせ、次時の活動を伝えて本時を終える。	

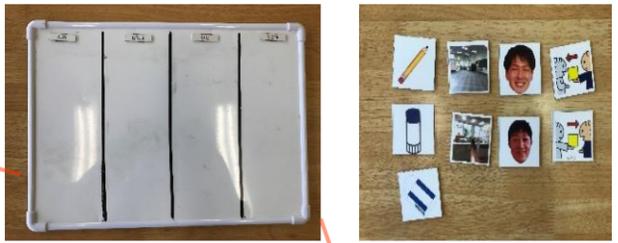
【改善】
 ・表左の(*1)の学習活動では、題材のはじめは教師の出す指示を聞いて聞き取りボードを作るのみだった。作った聞き取りボードの内容が表す行動の意味がわかるように、聞き取りボードを作った後に行動するように変更した。
 ・「人」→「だれ」、「物」→「なに」、「動作」→「どうする」と、視点を表す言葉を児童にとって身近なものに変更することで、不足している視点を児童自身で尋ねることができるようになった。

【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
「けしごむをホールの〇〇先生にあげる」の指示を聞いて、目の前に並んだ物(えんぴつ・けしごむなど)からけしごむを取り、教室内を歩き回る →物は聞き取るが、人・場所を聞き取ることに課題がある	・「人」、「人・物」、「人・物・場所」の視点を含んだ指示へと、段階的に視点を増やしていった。また、決まった語順で指示を出すことから始め、徐々に順番を入れ替えて出すようにした。 ・聞き取った指示に含まれる言葉のイラストカードを聞き取りボードに貼ることで、指示の内容を可視化した。 ・聞き取りボードを手がかりにして行動する→指示を聞いて行動する、と段階的に支援を減らしていった。	「けしごむをホールの〇〇先生にあげる」などの「物・場所・人」の視点を含んだ指示を聞いて、指示通りに行動することができるようになった。

実践のポイント

【視点ボードとイラストカード】

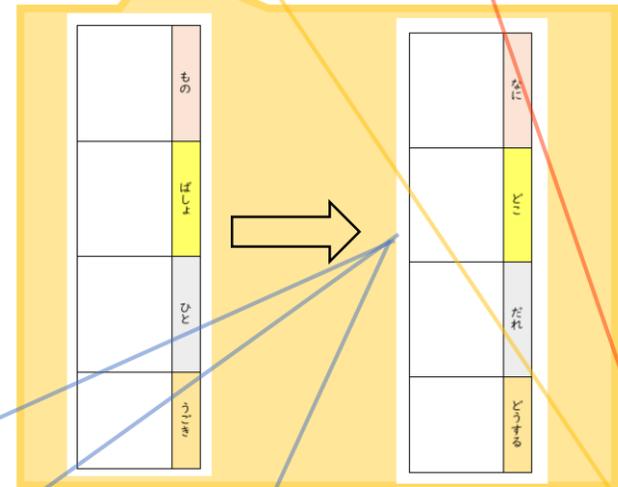


それぞれの言葉が表す意味や対応する視点を確認した。

【聞き取りボード】



指示に含まれる言葉と視点との対応を視覚的に捉えられるようにした。知識及び技能の習得状況に応じて、段階的に手がかりを減らしながら使用した。



視点を表す名称がイメージしやすいように、児童にとって身近な表現に変更した。

もの→なに	ばしょ→どこ
ひと→だれ	うごき→どうする

視点が不足する指示を出した時、抜けている視点を判断して教師に尋ねる時に「なに（を言ってください）」など、視点の名称を使って尋ねられるようにした。

- 働きかけについて (HOW TO)
- ☑ 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
 - ☑ 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
 - ☑ 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
 - ☑ 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
 - ☑ 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
 - ☑ つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけ
 - ☐ 課題遂行につながる効果的なことばかけ
 - ☑ 何がよかったかわかるよう即時評価
 - ☑ よさや価値を伝えられる認め
 - ☑ 働きかけを段階的に減らしていく工夫

題材目標について

- ☑ それぞれの子どもの目標を個別化する
- ☑ 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿（到達像）の具体化する
- ☑ 身につけたいことを焦点化する
- ☑ 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 - 例：教材の仕組み、学習環境の工夫など

教材について

- ☑ 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる？
- ☑ 必要性を感じ、課題をもてる？
- ☑ 主体的・対話的な活動は取り入れられる？
- ☑ 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる？
- ☐ 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる？
- ☑ 子どもにとっての強化子はある？

題材計画について

- ☑ つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている？
- ☑ 子どもへの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている？
- ☑ 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている？
- 【一次】
- ☑ 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる？
- ☑ 活動の意味やよさが十分理解できる？
- 【二次】
- ☑ 二次は確実な知識の習得
- ☑ 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない？
- ☑ 負荷がかかりすぎている？
- ☑ 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている？
- ☑ 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている？
- ☐ 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み？
- 【三次】
- ☑ できるようになったことを生かす場は設定されている？

学習環境について

- ☑ 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置？
- ☑ 不要な刺激は排除している？
- ☑ 仕方や手順がわかりやすく伝えられる？
- ☑ 成果が見てわかる？
- ☑ 自分で仕方や手順を確かめられる？
- ☑ 教具は、思考(わかる)を補助できる？
- ☑ 教具は一人で使えるようになる？
- ☑ 期待感(してみたい!)をもてる？

学習活動について

- ☑ 導入は課題理解、興味関心
- ☑ 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切？
- ☑ 発展は定着、応用、工夫できる？
- ☑ 終末は自己評価と次時への意欲
- ☑ 目的や意味、よさがわかる？
- ☑ 何をどのくらいどのようにするかわかる？
- ☑ 課題は段階的に高まっている？
- ☑ 間違いに気づいてやり直せる仕組み？
- ☑ 学習の結果と目的がつながって達成感をもてる？

評価について

- ☑ めあてと指導はつながっている？
- ☑ 文章・文法はわかりやすい？伝わる？
- ☑ 不適切な表現はない？(難しい、できないなど)

① 5/25 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・「うまくいったこと」 ・指示を聞いて活動した後、パズルのピースを受け取って枠に貼り、また指示を聞く場所に返って活動に取り組む姿が見られた。 ・学校でよく使う物の名称を聞いて実物を選んだり、校内の建物や教室の写真、先生の写真を見て名前を正しく言ったりした。	④ 6/2 欠 Q	【うまくいかなかったこと】 ・「ポプラのよしみ先生にのりをあげる」の指示で、それぞれの言葉(ポプラ・よしみ先生・あげる)を聞いた直後にイラストカードを選んで上から順に聞き取りボードに貼った。 ・聞き取りボードに空欄があると、動作が止まった。
【気づいたこと】 ・指示を聞く→行動する→パズルのピースを枠に貼って完成させていくという活動の流れを知ることができた。 ・身近な物や人、場所を表す言葉の働き(意味)は理解している。 ・動作に関する言葉と実際の行動が結びついていない	【気づいたこと】 ・イラストカードを選んでいる間に他の視点の言葉を聞き漏らして	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・指示を最後まで聞いてから、聞き取りボードを作るようにする。 ・視点の順番を入れ替えることで、指示に含まれる言葉がどの視点と対応するか意識して指示を聞けるようにする。 ・聞き取りボードに空欄ができた時には聞き取れなかった視点があることを判断し、「もう一度言ってください」など尋ねられるようにする。	【気づいたこと】 ・聞き取りボードに空欄がある時、教師の「もう一回」の言葉に続いて「もう一回」と繰り返して、自分から尋ねる姿は見られなかった。
② 5/27 欠 1名	【うまくいかなかったこと】 ・物を手渡ししながら「〇〇先生にあげる」と指示を出すと、聞き取りボードの人の枠に〇〇先生のイラストカード、動作の枠に『あげる』のイラストカードを貼り、それを見て指示通りに行動できた。	⑤ 6/3 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・聞き取りボードに空欄がある時、教師の「もう一回」の言葉に続いて「もう一回」と繰り返して、自分から尋ねる姿は見られなかった。
【気づいたこと】	【気づいたこと】 ・聞き取りボードに空欄があることが指示を聞き漏らしたことへの判断に結びついていない。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・聞き取りボードに空欄ができた時には、教師が「もう一回聞く？」など尋ね、「聞く」などの返答があった時に「もう一回言ってください」などの尋ね方につなげるようにする。	【気づいたこと】 ・聞き取りボードに空欄がある時、教師の「もう一回聞く？」など尋ね、「聞く」などの返答があった時に「もう一回言ってください」などの尋ね方につなげるようにする。
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・聞き取った指示を聞き取りボードに表したり、行動したりする時間を十分に設けられるように、新出の言葉の取り扱いには段階的に行うようにする。 ・「人」の視点から「物+人」の視点に指導内容を高めていく。	【気づいたこと】	⑥ 6/6 欠なし	【うまくいかなかったこと】
③ 5/31 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・発展場面で、聞き取りボードを使わずに指示を聞いてそのまま行動するように設定すると、聞き取りボードを探して作った。	【気づいたこと】 ・視点の順番を入れ替えた指示を聞いて、聞き取りボードに写真カードを貼り、指示通りに行動できた。	【気づいたこと】 ・視点を意識するきっかけを作る必要がある
【気づいたこと】 ・指示通りに聞き取りボードが作れているかを確認する教師と、その後の行動を確認する教師とに分かれて指導すると、行動の一連の様子が分かりづらい。 ・指示を聞く→聞き取りボードを作る→それを見て行動するの流れて取り組むことが手順化してしまっている。	【気づいたこと】 ・〇〇を△△先生にあげる」など、「物」「人」の視点の順に出した指示を聞いて、聞き取りボードを作り、それを見て指示通りに行動できた。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・視点を抜いた指示を出すことで、その視点がないことで行動できないことに気づいて伝える=視点を意識 ・視点を「なに」「どこ」「だれ」「どうする」など児童にとって身近な言葉に言い換える →視点が抜けた指示を聞いて必要な視点を尋ねる時、児童の言葉で尋ねられるように(「なに?」「どこ?」など)する。	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・視点を抜いた指示を出すことで、必要な情報が抜けていることに気づいた。指示を聞いて行動するための必要な視点を意識できていることから、必要な情報(視点)を判断して相手に伝える活動も取り入れていく。
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・児童ごとに教師が分かれて指導することで、指示を聞き取って聞き取りボードを作る→行動するまでの一連の流れを把握し、適切な認めが行えるようにする。 ・記憶できる視点の数に応じて、段階的に聞き取りボードを使わなくても指示を聞き取って行動するようにしていく。 ・「場所」「物」「人」へと指導内容を進める。	【気づいたこと】 ・視点が入ってないことに気づくと、教師の手を引っ張って視点が抜けていることを伝えようとする姿が見られた。 ・視点を抜いた指示を聞いた後、視点カードに書いた「どこ」「だれ」「何」という表現で尋ねることを確認すると、「どこ」などと言って教師に尋ねることができた。	⑦ 6/13 欠なし	【うまくいかなかったこと】
	【気づいたこと】	主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・視点を抜いた指示を出すことで、必要な情報が抜けていることに気づいた。指示を聞いて行動するための必要な視点を意識できていることから、必要な情報(視点)を判断して相手に伝える活動も取り入れていく。	